

大震災への支援ボランティア

関東学院六浦高校 2 年生の孫息子が、この 8 月に学校が企画した「第 9 回“福幸”支援ボランティア」に参加しました。“福幸”という名前がついていますが、これは勿論“復興”という言葉を使い換えているわけです。孫息子の通うこの学校では、2011 年からこの活動を始めています。いままでに、多くの生徒、卒業生、先生方が参加して、東日本大震災の被害に苦しむ地域に出かけて、当地のニーズに応える奉仕活動をしてきました。活動は 9 回目を数えています。孫は春休みのボランティア活動にも参加したので、2 度目の参加となりました。学校のブログより写真を拝借しました。



岩手県遠野市の大田地区コミュニティ消防センターに宿泊します。遠野市は未曾有の被害を受けた沿岸部の陸前高田市、大船渡市、釜石市、大槌町へ 40 キロの距離にあります。作業内容は「遠野まごころネット」(<http://tonomagokoro.net/>)という、岩手県沿岸部の被災者支援を目的に、遠野市民を中心として結成されたボランティア集団によって割振りされます。また、ほかのボランティアグループとも合流して作業をしているようでした。

作業は、遠野市で(1)物資の在庫管理、陸前高田市で(2)ハマナス植え作業、(3)除草作業、(4)土嚢に砂利詰め作業、釜石市で(5)バジル農園の花切り作業などでしたが、「まごころネット」の職員による勉強会、震災の語り部によるお話しなどもしていただいています。生徒たちは復興の進捗状況を各地で目の当たりにしています。また、沿岸部の美しい自然にも触れるチャンスを楽しんでいます。



このボランティア活動によって孫息子は特に被災者のお話しに心打たれたようでした。また陸前高田市で始まっている「かさ上げ」事業の大規模な様子、地元の人々の反対する姿も見て、複雑な気持ちになったようです。

東日本大震災は、忘れることが出来ない大惨事です。東北は距離的には離れているため、現実的に実感することがだんだん薄れてきているような気がします。あの時の衝撃と恐怖、信じられない映像が現実のものだということは本当に辛いことなのに、自分の平凡な日常にいつの間にか流されているような気持ちになっています。高齢者の私はささやかな募金で応援するしかできません。学校が支援活動を企画し、孫が関心を持って参加していることを、有難く、また、頼もしく感じています。学校はブログを通して様々な行事、活動を報告してくれていますので、私は毎日孫の学校のブログを見ています。生徒たちが真剣に、仲良く、活動する姿にいつも感動しています。